

水産高校における水産教育と 実習教育における可能性と魅力について

—山形県立加茂水産高等学校の事例から—

和田 優也

筆者の母校は山形県立加茂水産高等学校である。大学入学後に普通高校出身の学生と接する中で、自分が体験してきた高校教育が特殊なものであったことを痛感した。水産高校の実習、とりわけ実習船による漁業実習などの実習教育は、水産教育の大きな特徴の一つとなっている。そこで本論文では、水産高校の実態とその教育内容について調べ、水産教育の教育内容とその課題について明らかにしたい。そのうえで、これからの水産教育のあり方とその課題についても考察する。

山形県立加茂水産高等学校は、ここ数年定員割れをしており、さまざまな対策を行い、1年前より県外からも受け入れを行っている。そこで、山形県立加茂水産高等学校の水産科の先生方へインタビュー調査を行い、水産高校の現状について聞いた。インタビュー結果から、入学者の定員割れや卒業生の早期離職が多いことが明らかになった。

また、アンケート調査では、大東文化大学社会学部の学生 40 名に調査を実施した。アンケート内容としては、普通高校と実業高校の違いについてである。その結果、大学に入学する人の大半が普通高校出身者で実業高校出身者は少ないということがわかった。また高校卒業時に不安がある人も多くいた。

筆者の経験から見た山形県立加茂水産高等学校の現状について調査する中で、筆者が経験したこと他に、もっと深刻な問題を抱えていることが明らかになった。高校の教職員にインタビューしたことで改めてこの学校の現状を知り、卒業生が就職後に早期離職してしまうという課題に対して、離職を食い止めるために、高校側と企業が協力していく必要があると考えている。